

市場5割・セクタ3割・個別要因2割で考える売買のアイデア - 目次

表紙	1
前書き	3
目次	4
本書をお読みにする前に	8
PART.1 市場5割 市場平均が語る個別銘柄の「値動きの行方」	9
1-1 改めて、「株価を動かす要因」を考える	10
なぜ買われ、なぜ売られるのか	10
巨額資金はまず「株価指数」に向かう	11
1-2 市場という「場」の持つ力の大きさ	13
「市場5割」「セクタ3割」「個別の事情2割」	13
よほどのことがなければ市場に引きずられる	14
1-3 TOPIXと日経平均株価。その違いはどこにあるのか	15
性格が異なる2つの代表的株価指数	15
日経平均株価は誰にでも計算できる「みんなの指数」	16
1-4 今や市場の主役は「日経平均株価」	19
日経平均株価を意図的に動かす市場参加者	19
225先物を見ながら売買される個別株	21
1-5 市場平均を利用して「市場全体」に乗る	22
「225先物の値動きをシグナルにする」という発想	22
相関性が高くても売買シグナルになるとは限らない	23
1-6 「225先物が上がったら買え」。これが順張りトレード有効銘柄	26
順張りトレード・逆張りトレード	26
225先物の値動きに順張り型の銘柄	27
銘柄自身の値動きよりも225先物シグナルが頼れる	29
1-7 「225先物が下がったら買え」。これが逆張りトレード有効銘柄	32
先物と逆方向の売買で「市場全体」の流れに乗る	32
順張り型とも逆張り型とも言えない銘柄も	34
1-8 225先物が高寄りか、安寄りか。”寄り付き方”もシグナルになる	37
「先物が高く寄り付いたら個別銘柄を買う」の順張り売買	37
「先物が高寄りしたら売ってよし」の逆張り銘柄も	38
1-9 寝ている間も市場平均は動いている	40
米国の株価指数は「寄り付き前までの市場平均」	40
PART.2 セクター3割 「同業」「同類」「同系列」「仲間銘柄」の特性を活かす	43
2-1 「市場5割」「セクター3割」「個別の事情2割」は本当か	44
個別銘柄の値動きを構成する要素とは	44
銀行ETFの値動きの55%は「市場全体の値動き」	45
個別銘柄の値動きにも市場全体の影響力は大	46
個別銘柄の「明日」の値動きとセクターの関係	49
2-2 セクターのトップ銘柄の値動きを売買シグナルに使う	50
セクターの値動きを表す業種別指数は、実は入手不能！	50
トップ銘柄を意識して動いているのか、それとも…	51

業種よりも市場平均に対する意識が強まっている例	52
様々な業態の銘柄があるセクター。リーダーは誰？	53
“世界のソニー”の影響力は今なお大きいのか	54
2-3 同業の”似たモノ同士”2銘柄のトレード	56
似たモノ2銘柄の裁定取引。短期ではサヤ取り困難か	56
寄り付き方の差を裁定に活かす方法も	57
裁定売買よりも「相手の値動きシグナル」が有効な例	59
2-4 同セクター2銘柄を「225先物シグナル」でロング&ショート	62
225先物に対して違った動きをする似たモノ2銘柄	62
同セクターの“似てない”2銘柄にも通用する	63
事業内容に共通点がある2銘柄の例も	66
2-5 分類上は異業種でも市場の扱いは同業種の銘柄もある	68
この銘柄もクルマ関連、あの銘柄もクルマ関連	68
川上型銘柄は「主要顧客」に注目する方法も	70
“関連ありそうで、なさそう”銘柄シグナルが有効な例	71
2-6 同じ企業グループ内の銘柄大株主銘柄に注目してみる	73
同グループのリーダー銘柄はやはり影響力大か	73
グループのサブリーダー銘柄シグナルも使える	74
より“血”が濃い親子2銘柄の場合	75
グループ企業銘柄の寄り付き方に着目した売買もアリ	77
2-7 「低位グループ」の銘柄たちは何を見て動くのか	79
驚異のパフォーマンスをたたき出す「225先物シグナル」	79
関連業種からシグナルにする銘柄を探す手もある	81
同業が見当たらないなら“低位株仲間”を調べる	82
2-8 新興銘柄群に総じて良く効く要注目の売買シグナル	85
内需系なのに寄り付きでは米国市場を意識する？	85
225先物よりも新興市場指数の値動きを気にする銘柄	87
PART.3 個別要因2割 銘柄の自己都合による値動きをキャッチする	91
3-1 ”先物ヘッジ”を使って銘柄特有の値動きだけをとる	92
インデックスプレーに振り回されない策とは	92
パフォーマンスは安定化。しかも水準が落ちない！	93
225先物シグナルのポジションに「225先物ヘッジ」	95
先物ヘッジの金額はベータ値を参考に	96
3-2 値動きの傾向が「何とも言えない型」銘柄の対応策	98
順張り型とも逆張り型とも言えない悩ましい銘柄	98
「何とも言えない型」のリーダー株をヘッジ役に使う	101
3-3 ”自己都合第一”で動く銘柄	103
「自分自身の値動きに強烈な順張り」銘柄に注目	103
225先物との相関が低ければヘッジも効果薄	105
3-4 値動きの傾向が変われば有効シグナルも変化する	107
“イケイケ順張り”型の新興株も時代とともに変貌する	107
楽天はいまや成熟しきった値動きの株	108
多くの新興株に有効な「米国に逆張り」にも影響か	109
3-5 衝撃的な材料が出ると値動きは超順張り型に豹変する	112

強烈すぎる個別要因は値動きを順張り化する	112
全容が見えるまで流れに逆らうべからず	114
3-6 値動きサイクルを形成する「株主優待」という個別要因	115
株主優待はいまや材料として恒例化	115
優待人気の銘柄はここまで極端な値動きをする	116
逆の値動き2銘柄を組み合わせた「買いのみ」戦略	118
市場全体の上げ下げバイアスを活用する	120
高利回りREITにも同じようなアノマリーが	122
PART.4 売買のアイデア パフォーマンスUP↑に“ひと工夫”が効く	125
4-1 先物の上げ下げシグナルをもう少し細かく分けて見る	126
「明らかに上げ」「明らかに下げ」を分ける	126
「売り」「買い」のパフォーマンス明細を見る	127
さらに細かく「上げ」「下げ」を分けてみると…	129
先物ヘッジを付けて安定性を強化する	131
4-2 「引け→翌日引け」の値動きを「翌日 寄付」を境に分割する	133
「引け→翌日 寄り」「寄り→引け」の値動き	133
前日の値動きを売買出動条件に加えてみる	134
「引け→寄付」「寄付→引け」のアノマリー	136
4-3 短期の「順張り」「逆張り」型の値動きは中期的な傾向にも通じる	139
移動平均で中期的な値動き傾向をチェックする	139
短期で逆張り型の銘柄は中期でも「やっぱり逆張り」	140
巻末プラスα 情報売買アイデア考案に役立つ！《やや数学的な》基礎知識	143
<その1>「相関と回帰」で2銘柄の株価の関係、値動きの関係がわかる！	144
§1 2銘柄の「株価の関係」を調べてみる	144
一方の株価をX軸に、もう一方をY軸にとってプロットする	144
回帰式から“理論上”の株価チャートを作成してみる	146
§2 株価の「動き」の相関関係をチェックする	147
前日比上昇下落率の散布図をつくる	147
「ベータ値」は回帰直線の傾きを示す値	148
§3 株価の居所は逆相関。なのに株価の動きは正相関の例	149
逆相関銘柄は回帰式の傾きが右肩下がりになる	149
決定係数が語る「値動き傾向の強さ」	151
ボラティリティーの大きさがベータ値を押し上げることも	151
§4 「今日」と「明日」の値動き関係から考える売買法	152
時間差があると相関性は極めて微弱な数字に	152
統計学的には「無関係」だが、株価的には無関係ではない？	154
相関の正・負、係数の大きさが売買成果の目安に	156
§5 その銘柄自身の「今日」と「明日」の値動きの関係	159
値上がりした日の翌日は上がりやすいか、下がりやすいか	159
<その2>リスクを減らしながらも、パフォーマンスは落とさない！先物ヘッジ付売買	162
§1 効果を検証するデータのつくり方	162
個別銘柄のベータ値から先物の取引サイズを決める	162
先物ヘッジを付けると個別銘柄の値動きはどうか？	163
§2 「先物ヘッジなし」と「先物ヘッジ付き」を比較する	164
相関の強さの変化が散布図に表れる！	164

§3 先物ヘッジ付き売買の損益を計算する	166
先物ヘッジ付き売買の損益の算出例	166
なぜ先物ヘッジを付けるとパフォーマンス水準が上がるのか	167
<その3>リスク・リターンの源泉「ボラティリティー」を売買に活用する！	169
§1 ボラティリティーは「上昇下落率の標準偏差」	169
「各データが平均からどのくらい離れているか」の平均	169
§2 「覚悟しておくべき」値動きの目安をつける	171
株価は統計学的には“あり得ない”動きをする？	171
§3 ボラティリティーとリスク・リターンの関係	172
ボラティリティーの違いはこんな形になって表れる	172
複数銘柄をリスク等分で売買する目安に利用可能	174
セクター3割【資料編】全33業種＋REIT値動き特性ウォッチ	175
データの見方	176
水産・農林業	179
鉱業	180
建設業	181
食料品	184
繊維製品	186
パルプ・紙	188
化学	189
医薬品	193
石油・石炭製品	195
ゴム製品	196
ガラス・土石製品	197
鉄鋼	199
非鉄金属	201
金属製品	203
機械	205
電気機器	209
輸送用機器	215
精密機器	218
その他製品	220
卸売	222
小売り	225
銀行業	229
その他金融	232
証券業	234
保険業	236
不動産業	237
陸運業	239
空運業	241
海運業	241
倉庫・運輸関連業	243
情報・通信	244
電力・ガス	248
サービス業	250
不動産投信(REIT)	253
参考	255
<業種別平均値>	255
<ボラティリティー(σ)に注目する>	257